

人物紹介



セージ



アジュール

あらすじ

緑の王を継承したセージは、冷酷な青の王・アジュールに恋心を抱く。そんな中、王同士の恋を禁じた『王の禁忌』が偽りだったことを知るセージ。だが、青の王の弟・エールの最期の願いのため、『声』の力で『王の禁忌』を存在すると皆に思い込ませる。そして、セージは青の王を愛しているふりをすることを条件に、消えゆくそうになる妹を救おうと考え…！

青の王に抱かれる

それは今日が  
最後の夜になると  
いうことだ

神の力を取り戻せば  
俺はすぐにでも  
過去に戻って……





こういうのは  
ちよつと…  
恋人のようでは  
ないですか？

そんなのは  
俺と青の王では  
おかしいです…



あの…  
前みたいに  
してください



相変わらず  
人を冷めさせるのが  
上手いな

愛しているふりは  
どうした

あ、愛している  
ふりなんか—



初めから  
してない…

こちらを向け  
セージ



なんで名前を  
呼ぶんだ

ただ抱かれるだけで  
そんな必要ないのに

…っ

…あ



青の王も  
愛しているふりを  
しているのですか？



痛……っ！

小さな手だ  
力を込めるだけで  
残った指の骨も  
砕くことができる

たとえ神の力を得て  
過去へ戻っても

両手をつぶせば  
おまえは自分を  
殺すことができなくなるな



私がなぜ  
そのようなことを  
考えるのかわかるか

セージ



聞いては  
いけない



そうすればおまえは  
過去へ行く理由を失い  
私の前から  
消えることはない

未来で手に入れると  
約束した女が

また目の前から  
逃げ出すのを  
止められる



でも——



きっとまた  
からかわれている

勘違いする  
おろかな俺を  
笑おうとしているに  
違いない



……あなたが

俺のことを  
好きだから……っ

フッ  
うぬぼれているな

答えろ  
セージ

俺の望んだものが  
目の前に置かれている

決して手に入らないと  
思っていた人が――



最後まで  
好きに抱かせろ

青の女のように抱いても  
恋人のようにしても  
効果は同じだ

おまえに  
過去へ戻る力を  
与えてやる

うれしいなんて  
思っちゃだめだ



泣くな

青の王はいつだって  
俺がほしい言葉を  
くれるかわりに  
それ以上の絶望を与える



…あの時渡した  
髪留めだな

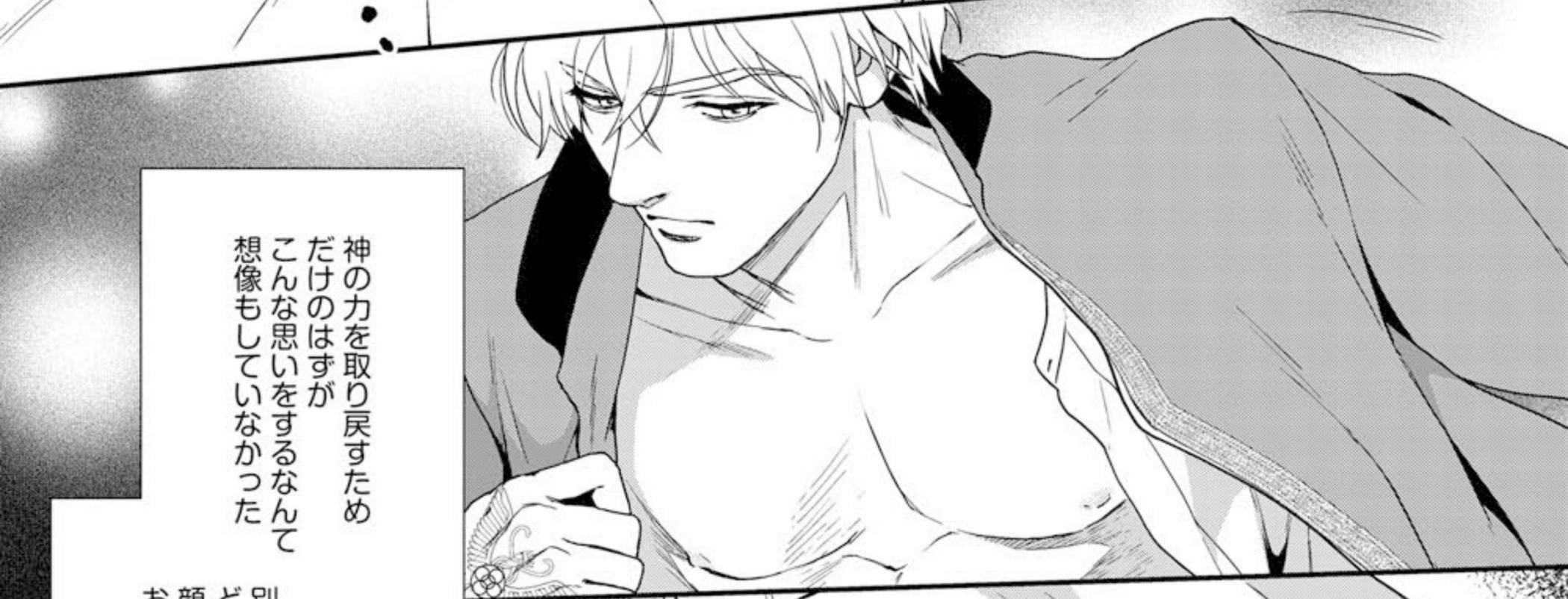
白い服を着て  
なつかしいものを  
身につけているから  
むかし会った女を  
思い出した



ヒソク  
またおまえと  
会えた



アージエント様……



神の力を取り戻すため  
だけのはずが  
こんな思いをするなんて  
想像もしていなかった



別れが待っているのに  
どきどきして  
顔が熱くなるなんて  
おかしい